



麻布幼稚園だより

令和5年11月号
港区立麻布幼稚園
園長 酒井 正美

園庭の柿の実がすっかり色付きました。毎年、5歳児年長組の子供たちが柿を収穫してくれています。今年も「採りたいね」と担任と子供たちが相談をし、柿を採りました。間もなく立冬です。寒さに向かう季節の中、晩秋と初冬の身近な自然を楽しんでいきたいと思えます。

麻布幼稚園では港区研究奨励園として、「自分が大好き 友達も大好き 笑顔いっぱい麻布っ子～国際理解教育につながる取組を通して互いに受け止め合う幼児を育てる～」をテーマに研究発表を行いました。港区立幼稚園の教員、小・中学校の教員、近隣の保育園保育士の他、都内8区、3つの他県からの参会をいただきました。

研究発表の内容の一部について、お伝えをいたします。

小・中学校の学習指導要領にあたる幼稚園教育要領では、「文化や伝統に親しむ際には、正月や節句など我が国の伝統的な行事、国歌、唱歌、わらべうたや我が国の伝統的な遊びに親しんだり、異なる文化に触れる活動に親しんだりすることを通じて社会とのつながりの意識や国際理解の意識の芽生えなどが養われるようにすること。」とあります。

麻布幼稚園には外国籍をもつお子さんや海外での生活経験のあるお子さんが全園児の2割程在籍しています。子供たちにとって学級に外国人等の友達がいることは日常的なことです。このような環境の中、麻布幼稚園の子供たちには、「身近な人と親しみ、愛情や信頼感をもち、幼稚園生活を楽しんでほしい。」「自国の言葉や文化に親しみ、自分と友達、自国と他国の違いを肯定的に受け止め合ってほしい。」と願っています。

幼稚園教育は、その後の学校教育全体の生活や学習の基礎を培う役割を担っています。「国際理解教育」においては、自国の文化に親しみ大切にすること、他国の文化も大切にすること、様々な国の人と関わり、協力し合う力の基礎を培うことが大切です。

麻布幼稚園では、

- 外国人幼児にとっても日本人幼児にとっても、誰にでも見て分かる掲示や教材の工夫
- 外国人幼児と日本人幼児をつなぐ言葉掛けや関わり、物の提示
- 自国の文化・他国の文化に触れる活動の機会の創出

この3つの手立てをもち、環境と援助の工夫を行っています。

また、母語の育ちが、思考や認知、社会性の発達に大きく関わることや、二つ目の言語の習得のしやすさにも関わることを踏まえ、言語環境を豊かにしています。

麻布幼稚園の環境を活かし、地域の方や様々な国の保護者等の協力を得て、日本の文化や伝統的な行事、季節の行事の実施や「保護者に話をしてもらう会」の機会を創出し、自国の言葉や文化に親しむと共に他国の文化への興味や関心がもてるように今後も工夫をしていきます。

一人ひとりが自分を大切に思えること、自分の国や文化や言葉を大切にできることは、相手も大切に、他国の文化や言葉も大切にすることにつながります。

今回の研究の成果を活かし、小学校・中学校、その先へとつながる幼児の育ちを支えていきたいと思えます。